

薬品情報

No. 365
2017/9/29
監修 三浦 昌朋
編集 薬品情報室

主な内容

- | | |
|------------------|---------------|
| 1. 新規採用薬品一覧 | 4. 医薬品の自主回収 |
| 2. 採用中止薬品および代替薬品 | 5. 医薬品の一時供給停止 |
| 3. 販売名称変更薬品 | 6. 後発医薬品への変更 |

1. 新規採用薬品一覧

[院内採用薬品]

119: その他の中枢神経系用薬

<p>プレガバリン Pregabalin リリカ OD錠 25mg、75 mg Lyrica</p> <p style="text-align: right;">処 ファイザー</p> <p>[剤] 内用:素錠(口腔内崩壊錠) [組] 1錠中にプレガバリン 25mg、75 mgを含有</p>	<p>[効] 1)神経障害性疼痛、2)線維筋痛症に伴う疼痛 [用] 1)神経障害性疼痛:通常、成人には初期用量としてプレガバリン1日150mgを1日2回に分けて経口投与し、その後1週間以上かけて1日用量として300mgまで漸増する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日最高用量は600mgを超えないこととし、いずれも1日2回に分けて経口投与する。 2)線維筋痛症に伴う疼痛:通常、成人には初期用量としてプレガバリン1日150mgを1日2回に分けて経口投与し、その後1週間以上かけて1日用量として300mgまで漸増した後、300~450mgで維持する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1日最高用量は450mgを超えないこととし、いずれも1日2回に分けて経口投与する。</p>	<p>[禁] 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者</p> <p>[副] 重大な副作用 めまい、傾眠、意識消失。心不全、肺水腫。横紋筋融解症。腎不全。血管浮腫。低血糖。間質性肺炎。ショック、アナフィラキシー。皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑。劇症肝炎、肝機能障害。</p>
--	--	---

3259: その他のたん白アミノ酸製剤

<p>一般名なし — エルネオパNF1号、2号輸液 Elneopa-NF No.1、No.2</p> <p style="text-align: right;">処 大塚製薬</p> <p>[剤] 水性注射剤 [組] NF1号:1袋(1000mL)中に総熱量560kcal、非蛋白熱量480kcal、非蛋白熱量/窒素153を含有</p>	<p>[効] 経口・経腸管栄養補給が不能又は不十分で、経中心静脈栄養に頼らざるを得ない場合の水分、電解質、カロリー、アミノ酸、ビタミン、亜鉛、鉄、銅、マンガン及びヨウ素の補給 [用] NF1号輸液:本剤は経中心静脈栄養法の開始時で、耐糖能が不明の場合や耐糖能が低下している場合の開始液として、あるいは侵襲時等で耐糖能が低下しており、ブドウ糖</p>	<p>[警告] ビタミンB1欠乏症と思われる重篤なアシドーシスが発現した場合には、直ちに100~400mgのビタミンB1製剤を急速静脈内投与すること。また、高カロリー輸液療法を施行中の患者では、基礎疾患及び合併症に起因するアシドーシスが発現することがあるので、症状があらわれた場合には高カロリー輸液療法を中断し、アルカリ化剤の投与等の処置を行うこと。</p>
--	--	--

薬品情報 365 号

<p>NF2 号:1 袋(1000mL)中に 総熱量 820 kcal、非蛋白熱量 700kcal、非蛋白熱量/窒素 149 を含有</p>	<p>を制限する必要がある場合の維持液として用いる。用時に上下 2 室の隔壁と上室内にある黄褐色及び赤褐色の小室を同時に開通し十分に混合して、開始液又は維持液とする。通常、成人には 1 日 2000mL の開始液又は維持液を 24 時間かけて中心静脈内に持続点滴注入する。なお、症状、年齢、体重に応じて適宜増減する。</p> <p>NF2 号輸液:本剤は経中心静脈栄養法の維持液として用いる。用時に上下 2 室の隔壁と上室内にある黄褐色及び赤褐色の小室を同時に開通し十分に混合して、維持液とする。通常、成人には 1 日 2000mL の維持液を 24 時間かけて中心静脈内に持続点滴注入する。なお、症状、年齢、体重に応じて適宜増減する。</p>	<p>【禁】 電解質代謝異常のある患者(1)高ナトリウム血症の患者、(2)高クロル血症の患者、(3)高カリウム血症(乏尿、アジソン病、高窒素血症等)の患者、(4)高リン血症(副甲状腺機能低下症等)の患者、(5)高マグネシウム血症(甲状腺機能低下症等)の患者、(6)高カルシウム血症の患者。重篤な肝障害(肝性昏睡又は肝性昏睡のおそれ等)のある患者。胆道閉塞のある患者。重篤な腎障害のある患者。アミノ酸代謝異常のある患者。本剤又は本剤配合成分に過敏症の既往歴のある患者。血友病の患者。</p>
		<p>【副】重大な副作用 アシドーシス。ショック、アナフィラキシー。高血糖。</p>

6343:血漿分画製剤

<p>アンチトロンビン ガンマ (遺伝子組換え) Antithrombin Gamma アコアラン静注用 600 Acoalan 生物由来、処 日本血液製剤機構</p> <p>【剤】 注射剤(凍結乾燥製剤) 【組】 1 バイアル中にアンチトロンビン ガンマ(遺伝子組換え)600 国際単位を含有</p>	<p>【効】 1) 先天性アンチトロンビン欠乏に基づく血栓形成傾向 2) アンチトロンビン低下を伴う播種性血管内凝固症候群(DIC)</p> <p>【用】 本剤を添付の注射用水で溶解し、緩徐に静注もしくは点滴静注する。</p> <p>1) 先天性アンチトロンビン欠乏に基づく血栓形成傾向:1 日 1 回 24~72 国際単位/kg を投与する。 2) アンチトロンビン低下を伴う播種性血管内凝固症候群(DIC):通常、成人には、1 日 1 回 36 国際単位/kg を投与する。なお、患者の状態に応じて適宜増減するが、1 日量として 72 国際単位/kg を超えないこと。</p>	<p>【禁】 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者</p> <p>【副】重大な副作用(類薬) 他のアンチトロンビン製剤で、ショック、アナフィラキシーがあらわれることが報告されているので、観察を十分に行い、呼吸困難、喘鳴、胸内苦悶、血圧低下、チアノーゼ等が認められた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。</p>
---	--	--

【院外採用薬品】

119:その他の中枢神経系用薬

<p>プレガバリン Pregabalin リリカ OD錠 150mg Lyrica 処 ファイザー</p> <p>【剤】 内用:素錠(口腔内崩壊錠) 【組】 1 錠中にプレガバリン 150mg を含有</p>	<p>【効】 1) 神経障害性疼痛、2) 線維筋痛症に伴う疼痛</p> <p>【用】 1) 神経障害性疼痛:通常、成人には初期用量としてプレガバリン 1 日 150mg を 1 日 2 回に分けて経口投与し、その後 1 週間以上かけて 1 日用量として 300mg まで漸増する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1 日最高用量は 600mg を超えないこととし、いずれも 1 日 2 回に分けて経口投</p>	<p>【禁】 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者</p> <p>【副】重大な副作用 めまい、傾眠、意識消失。心不全、肺水腫。横紋筋融解症。腎不全。血管浮腫。低血糖。間質性肺炎。ショック、アナフィラキシー。皮膚粘膜眼症候群、多形紅斑。劇症肝炎、肝機能障害。</p>
--	---	--

	<p>与する。</p> <p>2)線維筋痛症に伴う疼痛:通常、成人には初期用量としてプレガバリン 1 日 150mg を 1 日 2 回に分けて経口投与し、その後 1 週間以上かけて 1 日用量として 300mg まで漸増した後、300～450mg で維持する。なお、年齢、症状により適宜増減するが、1 日最高用量は 450mg を超えないこととし、いずれも 1 日 2 回に分けて経口投与する。</p>	
--	--	--

2189: その他の高脂血症用剤

<p>アリロクマブ (遺伝子組換え) Alirocumab プラレント皮下注 75mg ペン Praluent</p> <p>生物由来、処 冷所 サノフィ</p> <p>[剤] 注射剤 [組] 1 製剤 (1mL) 中にアリロクマブ (遺伝子組換え) 75mg を含有</p>	<p>[効] 家族性高コレステロール血症、高コレステロール血症 ただし、心血管イベントの発現リスクが高く、HMG-CoA 還元酵素阻害剤で効果不十分な場合に限る。</p> <p>[用] 通常、成人にはアリロクマブ (遺伝子組換え) として 75mg を 2 週に 1 回皮下投与する。効果不十分な場合には 1 回 150mg に増量できる。</p>	<p>[禁] 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者</p> <p>[副] 重大な副作用 重篤なアレルギー反応</p>
---	--	--

2399: 他に分類されない消化器官用薬

<p>リナクロチド Linaclotide リンゼス錠 0.25mg Linzess</p> <p>処 アステラス</p> <p>[剤] 内用: フィルムコーティング錠 [組] 1 錠中にリナクロチド 0.25mg を含有</p>	<p>[効] 便秘型過敏性腸症候群</p> <p>[用] 通常、成人にはリナクロチドとして 0.5mg を 1 日 1 回、食前に経口投与する。 なお、症状により 0.25mg に減量する。</p>	<p>[禁] 機械的消化管閉塞又はその疑いがある患者。本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。</p> <p>[副] 重大な副作用 重度の下痢</p>
--	---	--

3221: ヨウ素化合物製剤

<p>ヨウ化カリウム Potassium Iodide ヨウ化カリウム丸 50mg 「日医工」 Potassium Iodide</p> <p>— 日医工</p> <p>[剤] 内用: 丸剤 [組] 1 丸中にヨウ化カリウム 50mg を含有</p>	<p>[効] 1) 甲状腺腫 (甲状腺機能亢進症を伴うもの)、2) 慢性気管支炎、喘息に伴う喀痰喀出困難、3) 第三期梅毒 *放射性ヨウ素による甲状腺の内部被曝の予防・低減</p> <p>[用] 1) 甲状腺機能亢進症を伴う甲状腺腫には、ヨウ化カリウムとして 1 日 5～50mg を 1～3 回に分割経口投与する。この場合は適応を慎重に考慮すること。なお、年齢、症状により適宜増減する。</p>	<p>[禁] 本剤の成分又はヨウ素に対し、過敏症の既往歴のある者。肺結核の患者 (放射性ヨウ素による甲状腺の内部被曝の予防・低減の場合を除く)。</p> <p>[副] 重大な副作用 ヨウ素中毒。ヨウ素悪液質。</p>
--	--	--

	<p>2)、3)慢性気管支炎及び喘息に伴う喀痰喀出困難並びに第三期梅毒には、ヨウ化カリウムとして通常成人 1 回 0.1～0.5g を 1 日 3～4 回経口投与する。なお、年齢、症状により適宜増減する。 *放射性ヨウ素による甲状腺の内部被曝の予防・低減には、ヨウ化カリウムとして通常 13 歳以上には 1 回 100mg、3 歳以上 13 歳未満には 1 回 50mg、生後 1 ヶ月以上 3 歳未満には 1 回 32.5mg、新生児には 1 回 16.3mg を経口投与する。</p>	
--	--	--

3929: その他の解毒剤

<p>酢酸亜鉛水和物 Zinc Acetate Hydrate ノベルジン錠 25 mg、50 mg Nobelzin 劇、処 ノーベルファーマ</p> <p>【剤】 内用：フィルムコーティング錠</p> <p>【組】 1 錠中に酢酸亜鉛水和物 83.92mg (亜鉛として 25mg)、167.84mg (亜鉛として 50mg) を含有</p>	<p>【効】 1) ウィルソン病 (肝レンズ核変性症)、2) 低亜鉛血症</p> <p>【用】 1) ウィルソン病 (肝レンズ核変性症): 成人には、亜鉛として、通常 1 回 50mg を 1 日 3 回経口投与する。なお、年齢、症状に応じて適宜増減するが、最大投与量は 1 日 250mg (1 回 50mg を 1 日 5 回投与) とする。6 歳以上の小児には、亜鉛として、通常 1 回 25mg を 1 日 3 回経口投与する。1 歳以上 6 歳未満の小児には、亜鉛として、通常 1 回 25mg を 1 日 2 回経口投与する。なお、いずれの場合も、食前 1 時間以上又は食後 2 時間以上あけて投与すること。</p> <p>2) 低亜鉛血症: 通常、成人及び体重 30kg 以上の小児では、亜鉛として、1 回 25～50mg を開始用量とし 1 日 2 回経口投与する。通常、体重 30kg 未満の小児では、亜鉛として、1 回 25mg を開始用量とし 1 日 1 回経口投与する。血清亜鉛濃度や患者の状態により適宜増減するが、最大投与量は成人及び体重 30kg 以上の小児では 1 日 150mg (1 回 50mg を 1 日 3 回)、体重 30kg 未満の小児では 75mg (1 回 25mg を 1 日 3 回) とする。なお、いずれの場合も、食後に投与すること。</p>	<p>【禁】 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。有効な抗菌剤の存在しない感染症、深在性真菌症の患者。</p> <p>【副】 重大な副作用 銅欠乏症</p>
--	--	---

3999:他に分類されないその他の代謝性医薬品

<p>アプレミラスト Apremilast オテズラ錠 10mg、20mg、30mg Otezla</p> <p>劇、処 セルジーン</p> <p>[剤] 内用:フィルムコート錠 [組] 1錠中にアプレミラスト 10mg、20mg、30mg を含有</p>	<p>[効] 局所療法で効果不十分な尋常性乾癬、関節症性乾癬</p> <p>[用] 通常、成人にはアプレミラストとして以下のとおり経口投与し、6日目以降はアプレミラストとして1回30mgを1日2回、朝夕に経口投与する。</p> <table border="1" data-bbox="536 454 1023 672"> <tr> <th colspan="2">1日目</th> <th colspan="2">2日目</th> <th colspan="2">3日目</th> </tr> <tr> <td>朝</td><td>朝</td> <td>夕</td><td>朝</td><td>夕</td><td></td> </tr> <tr> <td>10mg</td><td>10mg</td> <td>10mg</td><td>10mg</td><td>20mg</td><td></td> </tr> <tr> <th colspan="2">4日目</th> <th colspan="2">5日目</th> <th colspan="2">6日目</th> </tr> <tr> <td>朝</td><td>夕</td> <td>朝</td><td>夕</td><td>朝</td><td>夕</td> </tr> <tr> <td>20mg</td><td>20mg</td> <td>20mg</td><td>30mg</td><td>30mg</td><td>30mg</td> </tr> </table>	1日目		2日目		3日目		朝	朝	夕	朝	夕		10mg	10mg	10mg	10mg	20mg		4日目		5日目		6日目		朝	夕	朝	夕	朝	夕	20mg	20mg	20mg	30mg	30mg	30mg	<p>[禁] 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。妊婦又は妊娠している可能性のある女性。</p> <p>[副] 重大な副作用 重篤な感染症。重篤な過敏症。</p>
1日目		2日目		3日目																																		
朝	朝	夕	朝	夕																																		
10mg	10mg	10mg	10mg	20mg																																		
4日目		5日目		6日目																																		
朝	夕	朝	夕	朝	夕																																	
20mg	20mg	20mg	30mg	30mg	30mg																																	

3999:他に分類されないその他の代謝性医薬品

<p>ブロダルマブ(遺伝子組換え) Brodalumab ルミセフ皮下注 210mg シリンジ Lumicef</p> <p>生物由来、劇、処 冷所 協和発酵キリン</p> <p>[剤] 注射剤 [組] 1シリンジ(1.5mL)中にブ ロダルマブ(遺伝子組換え) 210mg を含有</p>	<p>[効] 既存治療で効果不十分な下記疾患 尋常性乾癬、関節症性乾癬、膿疱性乾癬、乾癬性紅皮症</p> <p>[用] 通常、成人にはブロダルマブ(遺伝子組換え)として1回210mgを、初回、1週後、2週後に皮下投与し、以降、2週間の間隔で皮下投与する。</p>	<p>[警告] 1.本剤は結核等の感染症を含む緊急時に十分に対応できる医療施設において、本剤についての十分な知識と乾癬の治療に十分な知識・経験をもつ医師のもとで、本剤による治療の有益性が危険性を上回ると判断される患者のみに使用すること。本剤は感染症のリスクを増大させる可能性があり、また結核の既往歴を有する患者では結核を活動化させる可能性がある。また、本剤との因果関係は明らかではないが、悪性腫瘍の発現が報告されている。治療開始に先立ち、本剤が疾病を完治させる薬剤でないことも含め、本剤の有効性及び危険性を患者に十分説明し、患者が理解したことを確認した上で治療を開始すること。 2.重篤な感染症:ウイルス、細菌及び真菌等による重篤な感染症が報告されているため、十分な観察を行うなど感染症の発症に注意し、本剤投与後に感染の徴候又は症状があらわれた場合には、直ちに担当医に連絡するよう患者を指導すること。 3.本剤の治療を開始する前に、光線療法を含む既存の全身療法(生物製剤を除く)の適用を十分に勘案すること。</p> <p>[禁] 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者。重篤な感染症の患者。活動性結核の患者。</p> <p>[副] 重大な副作用 重篤な感染症。好中球数減少。重篤な過敏症。</p>
--	---	--

2. 採用中止薬品および代替薬品

当院採用の下記薬品について採用中止となり、順次切換えとなります。

採用中止薬品	代替薬品
アルクレイン内用液 5%(日医工) < 製造販売中止のため >	サンメール内用液 5%(サンド)
リリカカプセル 25 mg、75 mg、150 mg < OD錠への切換えのため >	リリカ OD錠 25 mg、75 mg、150 mg
エルネオパ1号、2号輸液 < FDA2000 に準拠したビタミン類含有 製剤 NF 輸液への切換えのため >	エルネオパ NF1 号、2 号輸液

3. 販売名称変更薬品

当院採用の下記薬品について名称変更となり、順次切換えとなります。

変更前薬品名	変更後薬品名
マキュエイド硝子体内注用 40mg	マキュエイド眼注用 40mg

4. 医薬品の自主回収

ドボネックス軟膏 50 μ g/g (鳥居薬品)の自主回収について

尋常性乾癬治療剤「ドボネックス軟膏 50 μ g/g」は、製造設備の洗浄機由来の微小なステンレスの粒が混入したものが発見され、該当ロットを回収し交換対応を行っています。

5. 医薬品の一時供給停止

フルダラ錠 10mg(サノフィ)の一時供給停止について

抗悪性腫瘍剤「フルダラ錠 10mg」は、フランスの製造元で品質試験において規格外の結果が認められ詳細調査の結果、出荷停止の措置に至っています。このため日本国内へ入荷のめどが立たず供給が一時停止しています。現段階で供給再開のめどは立っておりません。

6. 後発医薬品への変更 (○：採用後発医薬品)

下記院内採用 1 薬剤、院外採用 2 薬剤が、後発医薬品に変更となります。

 <p>オルメテック OD錠 20mg (院内)</p>	→	 <p>○オルメサルタン OD錠 20mg「DSEP」</p>
 <p>オルメテック OD錠 10mg (院外)</p>	→	 <p>○オルメサルタン OD錠 10mg「DSEP」</p>
 <p>オルメテック OD錠 40mg (院外)</p>	→	 <p>○オルメサルタン OD錠 40mg「DSEP」</p>